

重点医師偏在対策支援区域における医師の勤務・生活環境改善のための施設整備事業に係る支援対象の決定について

「重点医師偏在対策支援区域における医師の勤務・生活環境改善のための施設整備事業実施要綱」（令和8年3月19日付医政発0319第22号）に基づき、重点医師偏在対策支援区域における医師の勤務・生活環境改善のための施設整備事業に係る支援対象を、以下のとおりとする。

<支援対象（案）>

非公開

【参考】

重点医師偏在対策支援区域における医師の勤務・生活環境改善のための施設整備事業

1 目的

今後も一定の定住人口が見込まれるものの、必要な医師を確保できず、人口減少よりも医療機関の減少のスピードの方が早い地域などを重点医師偏在対策支援区域（以下単に「支援区域」という。）と設定した上で、支援区域における医療機関の宿直室等の施設整備を行うことにより、医師の勤務・生活環境を改善することで医師の離職防止や新たに勤務する医師の増加を図り、地域の医療提供体制を確保することを目的とする。

2 支援区域

- (1) 国が提示する候補区域（高粱・新見圏域、真庭圏域）
- (2) 医師偏在指標が全国平均を下回る二次医療圏（津山・英田圏域）
※事業については、予算の範囲内で（1）～（2）の順に優先的に実施。

3 事業内容

(1) 補助対象者

支援区域において、医師の勤務・生活環境改善に資する、施設整備を行う医療機関

(2) 補助対象経費及び補助率

議案

補助対象	1㎡当たり単価	補助率
<p>医師の勤務・生活環境改善に資する次の部門の新築、増築、改築及び改修に要する工事費又は工事請負費</p> <p>【宿直室・医局・更衣室・浴室等】</p> <p>※住居としてのみ使用される医師住宅は対象とならない。</p> <p>次に掲げる基準面積に単価を乗じた額とする。</p> <p>基準面積：80㎡</p>	<p>鉄筋コンクリート：558千円</p> <p>ブ ロ ッ ク：444千円</p> <p>木 造：362千円</p>	<p>1/2</p>

重点医師偏在対策支援区域における医師の勤務・生活環境改善のための 施設整備事業実施要綱

1. 目的

今後も一定の定住人口が見込まれるものの、必要な医師を確保できず、人口減少よりも医療機関の減少のスピードの方が早い地域などを重点医師偏在対策支援区域（以下単に「支援区域」という。）と設定した上で、支援区域における医療機関の宿直室等の施設整備を行うことにより、医師の勤務・生活環境を改善することで医師の離職防止や新たに勤務する医師の増加を図り、地域の医療提供体制を確保することを目的とする。

2. 事業の実施主体

都道府県が定める支援区域において、医師の勤務・生活環境改善を行う医療機関であって、都道府県の地域医療対策協議会及び保険者協議会で支援対象として合意を得た医療機関の開設者とする。

3. 事業内容

宿直室・医局・更衣室・浴室等の医師の勤務・生活環境改善に資する施設整備に対する支援を行う。

4. 支援区域の設定

都道府県において、厚生労働省が提示する候補区域を参考としつつ、地域の実情に応じて、医師偏在指標、可住地面積あたり医師数、住民の医療機関へのアクセス、診療所医師の高齢化率、地域住民の医療のかかり方、今後の人口動態等を考慮して、地域医療対策協議会及び保険者協議会で協議した上で、区域外から医師を確保できないと医療提供体制の維持が困難と考えられるような、真に重点的に医師を確保する必要がある区域に限り設定することとする。

支援区域は、二次医療圏単位のほか、地域の実情に応じて、市区町村単位、地区単位等で選定できることとする。

5. 先行的な医師偏在是正プランの策定

都道府県において、本事業を実施するため、支援区域及び支援対象医療機関等を定めた、先行的な医師偏在是正プランを策定する。

【厚生労働省が提示する候補区域】

候補区域は、以下のいずれかに該当する区域とする。

- ①医師少数県の医師少数区域
- ②医師少数区域かつ可住地面積当たりの医師数が少ない二次医療圏
（全国で下位1／4）
- ③各都道府県の医師偏在指標が最も低い二次医療圏

なお、医師多数都道府県等においては、候補区域となる二次医療圏が、必ずしも地域住民の医療へのアクセス等に困難を抱える区域ではないと考えられる場合は、重点医師偏在対策支援区域が優先的かつ重点的に医師偏在対策を実施すべき区域であることを鑑み、候補区域となる二次医療圏を重点医師偏在対策支援区域として設定しないことも考えられる。